

<会員特別研究会>eディスカバリ対応の基本

米国訴訟において日本企業が備えるべきデータマネジメントの基本とコスト削減の工夫

- 日 時■ 2015年 9月15日(火) 10:00~11:30
- 会 場■ 企業研究会セミナールーム(東京・麹町)
- 講 師■ 株式会社UBIC 執行役員 野崎 周作

【講師紹介】

2004年にUBICに入社。企業のコンプライアンス支援としてコンピュータフォレンジックを活用した機密情報漏えいや不正会計などの内部犯罪調査・監査のためのソリューションを提供。民間企業及び法執行機関向けにコンピュータフォレンジックトレーニングを開講し、講師として多数の調査員育成に従事。また、コンピュータフォレンジックの豊富な知識と経験をもとに米国をはじめとする訴訟時に必要なeディスカバリに関する支援も行い、広く情報リスクに関する企業防衛のための戦略予防法務支援サービスを提供している。公認不正検査士(CFE)とEnCase Certified Examiner(EnCE)の資格を有する。

◆ 開催にあたって

米国民事訴訟の手続きのひとつに証拠開示制度があります。これは訴訟当事者同士が訴訟に関連する資料を収集し、開示する制度ですが、現在、企業の資料の多くが電子化されているため、電子データの開示手続が必要となります。この工程をeディスカバリと言います。

さて、近年、アジア企業が米国訴訟における知財訴訟やPL訴訟、カルテル調査へのeディスカバリの不適切な対応により、厳しい制裁が課せられるケースが後を絶ちません。莫大な賠償金額や制裁金額に注目が集まりがちですが、その背景で訴訟を受ける企業は、メールなどの膨大な電子証拠の開示手続に対応する必要があり、その適切な処理に多大な費用と労力をかけています。

本セミナーでは、eディスカバリの概要を解説するとともに、特にアジア企業がeディスカバリの対応をするに当たって留意すべき点を詳解します。また、弁護士やITベンダーを活用することによる費用と労力の削減のポイントについても解説します。

《プログラム詳細は裏面をご覧ください》

●受講料●1名(税込み、資料代含む)

正会員	無料
一般	5,400円 本体価格5,000円

- 申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あてにFAXいただくか、当会ホームページからお申し込みください。メール返信の形で受講票をお送りいたします。また会員企業以外の方には請求書を別途送らせていただきます。
- 申込書をFAXにてご送信いただく際は、FAX番号をお間違えないようご注意ください。
- 会員企業のご確認、その他セミナーに関するご不明な点につきましては、当会ホームページより〔TOP〕→〔公開セミナー〕→〔よくあるご質問〕をご参照下さい。
- お申込み後のキャンセルは原則としてお受けいたしかねますので、お申込者をご出席できない場合には、代理の方のご出席をお願い申し上げます。
- 最少催行人数に満たない場合は、中止とさせていただきます。

一般社団法人企業研究会

担当：倉島 E-mail: kurashima@bri.or.jp
〒102-0083
東京都千代田区麹町5-7-2 麹町31MTビル2F
TEL 03-5215-3515 FAX 03-5215-0951

企業研究会 セミナー事務局宛

FAX 03-5215-0951

*当会ホームページ (http://www.bri.or.jp) からもお申込みいただけます。

151529-0309	※	2015.9.15
申込書		
会社名	フリガナ	
住所	〒	
TEL	FAX	
ご氏名	フリガナ	所属 役職
Eメール		

*お客様の個人情報は、本研究会に関する確認・連絡、および当会主催のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

<会員特別研究会>eディスカバリ対応の基本

米国訴訟において日本企業が備えるべきデータマネジメントの基本とコスト削減の工夫

9月15日(火)

● プログラム ●

10:00

1. eディスカバリとは

- 1) eディスカバリの背景と訴訟事例
- 2) 米国民事訴訟の流れとディスカバリの位置づけ
- 3) eディスカバリの工程
 - ・ Collection
 - ・ Processing
 - ・ Review
- 4) eディスカバリの費用

2. eディスカバリにおける日本企業が抱える問題と対応

- 1) 米国弁護士への強い依存
 - ・ 弁護士も含めたディスカバリ体制の構築
- 2) 困難な日本語の処理
 - ・ 日本語処理能力の高いベンダーの見極め方
- 3) 電子データ保管における機密性
 - ・ 近年、問題となるデータ管理のあり方
- 4) だまされやすいコスト構造と正しいベンダー選定
 - ・ コスト構造の理解と、低コストを目指すためのポイント
 - ・ なぜ低コストを重視する必要があるか

3. eディスカバリ最新トレンド

- 1) eディスカバリ専門ベンダーの活用、選定のポイント
- 2) Predictive Coding の活用
 - ・ Predictive Coding の概要
 - ・ Predictive Coding の効果
 - ・ 米国司法業界の動向

11:30

※ご参加者の方には『日本企業のディスカバリ対策 実践・コストコントロール編』（グローバルトライ刊行）を配布いたします。

※講師とご同業の方はご参加頂けない場合がございます。予めご了承ください。

※お客様の個人情報は、本研究会に関する確認・連絡、当会主催のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

また、講師企業からご連絡する場合がありますのでご了承ください。

※メール返信の形で受講票をお送りいたします。また会員企業以外の方には請求書を別途送らせていただきます